

「自力解決の力」を育む 「幼保小中一貫教育」の推進

南陽市教育委員会学校教育課長 板垣 健

1 地方創生への動き

平成26年5月に民間研究機関「日本創生会議」が市町村別将来推計人口試算、いわゆる「消滅可能都市」を公表し、政府と地方自治体では、急速に人口減少対策の機運が高まっています。

地域活性化の施策は歴代政権下においても重要な施策として取り組まれてきましたが、大都市圏と過疎化や高齢化に直面する地方との格差はなかなか縮まらなかったところか、ヒト、モノ、カネが集中する東京首都圏には、日本が人口減少社会に入った現在でも若者を中心に人口流入が続いています。

平成27年5月27日に「そうだ、地方で暮らそう！」国民会議が、地方移住の推進に向けて、7項目の行動宣言を採択しました。同宣言では「地方の創生は日本の再生です。地方の創生は、国民それぞれが、地方の良さに気付き、誇りと愛着を持ち、地方で暮らし、働き、豊潤な人生を過ごすという選択を主体的に行うことで成し遂げられていくものです。」と主張しています。

2 グローバル人材の育成

一方で、アベノミクス3本目の矢である「成長戦略」の実現の鍵を握る重要テーマの一つに、「世界で活躍できる人材の育成」を掲げています。

情報・通信や交通の分野での技術革新により、すべてのものが海を越え、国境を越えるという意味で、世界は今新しい大航海時代を迎えているとして、特に、日本の若者に対して、広い世界の中で自己研鑽を積み、日本と世界で活躍できる人材としての成長を期待し、文部科学省では、官民協働で、意欲と能力のある若者の海外留学を積極的に支援する取組を行っています。

3 「自力解決の力」の育成

人口減少、大都市圏と地方の格差、グローバル化の他にも、国民投票権・選挙権年齢の引き下げ、S

NSを介した問題行動等、新たな社会問題への対応は学校教育にも求められます。

私たちは、こうした社会問題を解決する当事者となる児童生徒一人一人に、自ら主体的に考え、判断・決断し、実行する力、つまり自己指導能力をしっかりと育むことが大事であると考えます。自己指導能力を育成するためには、日常の学校生活の場面において、様々な自己選択や自己決定の場や機会を与え、その過程において、教職員が適切に指導や援助を行うことが重要です。選択や決定の際によく考えることや、その結果が不本意なものになっても真摯に受け止めること、自らの選択や決定に従って努力することなどを通して、将来における自己実現を可能にする力を育てていくことです。また、そうした選択や決定の結果が周りの人や物に及ぼす影響や、周りの人や物からの反応などを考慮しようとする姿勢も大切です。

自ら考え、判断・選択・決断し、実行すること。そして、その実行の結果と結果までの過程にも責任を負うこと。これは義務教育の目的である「社会において自力的に生きる基礎」そのものであり、本市幼保小中一貫教育のねらいである「自力解決の力」でもあります。

これまで、幼保小中12年間の「学び」と「育ち」の連続性のある教育活動の展開に向け、幼保小中それぞれの教職員が、教育理念・指導観を共有し、指導計画や教育課程を計画的・系統的に作成し、連携・連動・一体化を重視した教育活動に取り組んでいただいておりますが、慌ただしく過ぎていく日々の指導の中では、ともすれば「活動ありき」になってしまい、「何のためにこの活動をやっているのか」その目的を見失うことも危惧されます。市内幼保小中の全教職員が、「自力解決の力」をキーワードとして常に念頭に置きながら、それぞれの年齢・学年の発達段階に応じた「自力解決の力」を確実に育成していただくことをお願いいたします。

心を動かす質のある体験を通して深まる学び

自覚的学び



自分達の遊びという意識が生まれ折り合いをつけながらそれぞれ自己発揮して遊ぶ。

就学

6歳

飼育の経験から子どもたちの疑問にアイデアを出し合い取り組む。



かたつむりうんちレインボー大作戦

5歳



自然物に触れ感じたこと、学んだことを表現する。



イメージや考えを出し合い葛藤しながら友だちと遊びをつくる。

4歳

試したり工夫したりしながら遊びあいに没頭する。



3歳

友だちがしていることに興味を持ち一緒に楽しむ。



気に入った遊びを心行くまで繰り返し楽しむ。

学びの芽生え

人と関わる体験

(協同して遊ぶようになる体験)

物と関わる体験

(主体的に関わるようになる体験)

基本的な生活習慣の確立

- ・保育者や身近な人々との信頼関係づくり
- ・安心して過ごすことができる環境づくり

目標「高めよう生きぬく力 とともにやさしく たくましく」

学習面で一貫教育

「算数・数学の力を高める」

○異学年間の教え合い学習

学習ボランティア

夏休み期間中に、2日間中学校3年生が小学校に訪問し、算数を中心に学習ボランティアを行う。



○学習内容の系統を意識した指導

校内研究会の参観

3校が学び合いを意識した校内研究を進める。授業研究会では、積極的に参観を行い、中学校は小学校の学習内容を、小学校は中学校の学習内容を把握し合い、日々の授業改善に努める。



計算ドリルを使っでの補充

小学校の計算ドリルプリントを中学校でも活用し、計算のつまずきを発見し、補充を行う。

生活面での一貫教育

「情報モラル教育の推進と生活リズムの確立」

○セーブ・メディア

SNS携帯電話講習会



PTA研修部と連携を図り、保護者を対象としたSNSや携帯電話についての研修会を実施。地区懇談会などで話題としていただきながら、小中一貫したセーブ・メディアを啓蒙。

○生活リズムの確立

ノーテレビ・ノーゲームデーの実施

中学校の定期テストの前日に合わせ、ノーゲーム・ノーテレビデーを実施。学習時間の確保と家庭内の会話を大切にす一日としていく。

小学校6年生への講話

中学校の教頭が小学校を訪問し、目標を達成できる生活の大切さについて講話を行っている。併せてゲームやSNSの利用について触れる。

あいさつ運動の推進

児童会、生徒会の役員が中心となって、あいさつ運動を推進していくことを確認し、それぞれで自治活動を行う。

特別活動での一貫教育

「ボランティア活動の推進」

○小中合同でのボランティア

クリーンアップ作戦



小学校の下校に合わせて、中学生が母校の小学校を訪れ、同じ地区の小中学生と一緒に下校しながら、通学路のゴミ拾いを行う。拾ったゴミは、中学生が中学校に持ち帰り、分別して廃棄する。

○自立貢献の意識

小学校の運動会役員、プール清掃の協力

中学生が小学校のプール開きに合わせ、プール清掃を行ったり、小学校の運動会の役員を務めたりして、母校に貢献しようとする態度や地域活動に参画しようという意識を育む。



結城豊太郎記念館開館20周年・臨雲文庫開庫80周年記念

今こそ結城豊太郎先生の教えを子ども達に

南陽市立結城豊太郎記念館 館長 加藤 正人

去る5月24日、結城豊太郎先生の生誕の日に、結城豊太郎記念館開館20周年・臨雲文庫開庫80周年記念事業が行われた。この記念事業を通して、改めて結城先生の生き方、素晴らしさや地域への貢献の大きさを確認できる場となった。その教えを南陽市内の全ての子ども達に伝えていきたい。

1 その教え

結城先生の教えは、書にしたためられ、石に刻まれ時を越えて伝えられている。また、先生を形容する言葉も数多くある。その一部を以下に列記する。

「ふるさとは国の本なり」「志をもて」
 「こよなくふるさとを愛す」「修己治人」
 「学ぶは山に登るが如し」「世のため人のために」
 「餘有るを待ちて人を人を濟わんとせば終に人を濟う日無く
 暇有るを待ちて書を讀まんとせば必ず書を讀む時無し」

2 学ばせたいこと

結城先生は日本経済のトップとして活躍するかたわらふるさとに様々な貢献をしている。

結城先生の生涯の生き方、さらに結城先生がふるさとに貢献した姿を伝え、その思いを感じさせてほしい。また、結城先生の生き方や貢献の姿を通して、子ども達の住む地域を愛する心を育み、地域に貢献する子どもを育ててほしい。

3 学びの方法

小学生の社会科副読本を活用した社会科の学習や中学生向けガイドブックを活用した進路学習や道徳教育など、多様な学びを仕組むことがで

きる。また、結城先生を育んだ中国の古典の代表的な「論語」の素読は国語科だけでなく、学級活動などでぜひ体験させたい学びである。

さらにガイドブックを監修した山形大学三上英司教授、さらには編集委員等による出前授業なども学習方法に変化を持たせることができるものと考えられる。



子ども論語塾



赤湯小校庭の石碑

4 先生方へ

まずガイドブック「学ぶは山に登るが如し」をじっくりと読んでいただきたい。このガイドブックは結城先生の思いが網羅されており、「風也塾士規七則」や「論語」を平易な言葉で解説している。どこから読んでもよい冊子であり、バイブルのように中学生が常に携えて、時々開いて読んでもらえることを期待している。何よりもまず結城豊太郎記念館に足を運び、展示資料を通して結城豊太郎先生の生涯を辿っていただきたい。

【編集後記】

昨年、驚いたことに学校のまわりの水田でカブトエビを発見しました。生きた化石とも言われ、生きているのは1ヶ月でも、産み落とされた卵は乾燥や寒さにも強く、十年も生き続け、それが生き延びてきたゆえんだそうです。今年も、歓声を上げながらカブトエビ探しを楽しんでいる子どもたちを見ていると、これからの厳しい世の中をカブトエビとまではいかなくともたくましく生きぬく力をつけてほしいという思いを強くしました。今年度も、子どもたちの輝き、教職員の確かな実践、外部の皆様からのご意見をいただき、「南陽の子ども育成」につながる所報となるよう努めてまいります。

(大竹 仁)

【情報センター委員】

- | | | | |
|----------------|----------------|---------------|--|
| ◎大竹 仁 (中川小学校) | ○佐藤 法子 (中川小学校) | | |
| 内山 剛 嗣 (沖郷小学校) | 金子 達 (梨郷小学校) | 鈴木 涉 (赤湯小学校) | |
| 網代 良 一 (中川小学校) | 高橋 拓也 (宮内小学校) | 二戸部 優 (漆山小学校) | |
| 土屋 一雄 (沖郷中学校) | 高橋 利幸 (赤湯中学校) | 高橋 良行 (宮内中学校) | |
| 佐野 浩士 (南陽市教委) | | | |